

## 「兼久小学校のワレンキャガイドの取組」

### 1 学校名

天城町立兼久小学校

### 2 学年・人数

5年生 6人

6年生 10人

### 3 日時・場所

#### (1) 学習会等の日時・場所

- ・ 学習会：9月～11月 総合的な学習の時間
- ・ 文化財巡検：令和2年10月7日（水）

兼久集落公民館，兼久噺役場跡，塔原遺跡発見者宅など

- ・ 発表資料作成：令和2年10月 総合的な学習の時間，放課後など

#### (2) 発表の日時・場所

ア 令和2年11月1日（日）

天城町立兼久学校「学習発表会」

イ 令和2年12月18日（金）

兼久小学校・手々小中学校・阿権小学校ワレンキャガイドサミット

### 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

#### (1) 名称・時代

- ・ 塔原遺跡（とうばるいせき）：縄文時代晩期～弥生時代前期

#### (2) 特徴

塔原遺跡は、石灰岩台地の縁辺部に形成された縄文時代晩期末～弥生時代前期頃の大規模な集落跡である。遺跡範囲は35,000㎡にも及び、琉球列島において最大級の遺跡規模となる。

### 5 保存会や地域との連携の具体

塔原遺跡の発見者である向井一雄氏のお宅を訪ねて、遺跡を発見した経緯や、遺跡からどのような遺物が発見されたのか説明していただいた。

### 6 活用の取組の工夫した点

ワレンキャガイドでは、小学生自らが、地域の魅力について調査を行ったうえで、地域を訪れる方々にその案内を行う。その過程のなかで、地域を見つめ直し、育った環境に愛着や誇りをもつことを目的としている。今回、ワレンキャガイドが校区内の調査を行うなかで、塔原遺跡についても調査を行い、その成果を学習発表会にて保護者などに対して発表して、史跡の活用を行った。

## 7 取組の様子（学習の様子・学習発表等）



「塔原遺跡発見者による遺跡から発見された土器・石器の説明」



「ワレンキャガイドサミットの様子」



「学習発表会での成果発表の様子」

## 8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【児童】

- ・ 1000年以上も前から、兼久に人が住んで暮らしていたことに驚いた。
- ・ 向井さん（塔原遺跡発見者）はすごい。それは、畑から出てきた石を集めて研究したからだ。自分たちだったら、石が出てきてもそれをすごいものとは思わず、ほったらかしにしていたと思う。
- ・ 自分も向井さんのように何か研究を続けてみたい。
- ・ 今はただの畑にしか見えない場所なので、もっとすごさが伝わるような場所にしてほしいと思う。

### 【教員】

- ・ 自分が生まれ育った地域を調べることで、自分の郷土に誇りをもたせることができた。新しいことを教えてもらうたびに、兼久のことを「何もない場所」から「ここはこんなにすごい場所」へと見方がどんどん変わっていった。さらに、ここで今生きている自分を肯定することにもつながった。

### 【地域の方から】

- ・ この取組を通して、もっともっと地域を好きになってほしい。